

問題一 次のA～Eの熟語の傍線部と同じ漢字を使うものを各群の中から一つ選び、符号で答えよ。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| A | 関連 | 1 | カン徹 | 2 | 勇カン | 3 | カン誘 | 4 | カン与 | 5 | 暴カン |
| B | 動静 | 1 | セイ肅 | 2 | セイ癖 | 3 | セイ濁 | 4 | 自セイ | 5 | セイ励 |
| C | 同伴 | 1 | ハン定 | 2 | ハン例 | 3 | ハン侶 | 4 | 急ハン | 5 | ハン価 |
| D | 固有 | 1 | コ性 | 2 | コ意 | 3 | 解コ | 4 | 証コ | 5 | コ執 |
| E | 造詣 | 1 | ケイ重 | 2 | 拝ケイ | 3 | ケイ鳴 | 4 | 参ケイ | 5 | ケイ率 |

問題二 ことわざの中には、それぞれ一面の真実をあらわしてはいても、相互には矛盾・対立した意味となるものもある。「好きこそ物の上手なれ」に対し、「下手の横好き」というのがあるのなどは、その良い例である。では、次のA群のことわざと矛盾・対立の関係になるものをB群の中から選び、符号で答えよ。

- | | | | | |
|---|---------------|-------------|----------------|--------|
| A | ① 触らぬ神に祟りなし | ② 大器晩成 | ③ 蛙の子は蛙 | ④ 善は急げ |
| | ⑤ 虻蜂取らず | ⑥ 渡る世間に鬼は無し | ⑦ 立つ鳥跡を濁さず | |
| | ⑧ 食うた餅より心持ち | ⑨ 棚からぼた餅 | ⑩ 喉元過ぎれば熱さを忘れる | |
| | ⑪ 腹が減っては戦はできぬ | | | |

B ア 急いては事をし損じる

イ 蒔かぬ種は生えぬ

ウ 一石二鳥

エ 鷹が鷹を生む

オ 旅は道連れ世は情け

カ 後は野となれ山となれ

キ 思し召しより米の飯

ク 瓜の蔓にはなすびはならぬ

ケ 虎穴に入らずんば虎児を得ず

コ 大は小を兼ねる

サ 泣き面に蜂

シ 義をみてせざるは勇なきなり

ス あつものに懲りて膾を吹く

セ 梅檀は双葉より芳し

ソ 武士は食わねど高楊枝

タ 人を見たら泥棒と思え

問題三 次の文中の傍線を施した接続助詞の意味・用法を後ろの語群から選び、符号で答えよ。

- | | | | |
|---|----------------|---|---------------------------|
| 1 | 酒もいけれどもワインもいい。 | 2 | 日差しは春だけれども、吹きつける風はまだ冬である。 |
| 3 | 人生には山もあれば谷もある。 | 4 | ほしければあげる。 |
| | | 5 | 住めば都。 |

【意味・用法】

A 類似・一致

B 逆接仮定条件

C 逆接確定条件

D 対比

E 反語

F 順接仮定条件

G 並列

H 順接恒常的条件

問題四 次の各文の空欄に漢字二字を入れ、四字熟語を完成させよ。

- | | | |
|---|---------------------------|---------|
| ① | やけになることを自暴【 | 】と言う。 |
| ② | あわてふためくことを【 | 】狼狽と言う。 |
| ③ | 昔のままに進歩のない状態を旧態【 | 】と言う。 |
| ④ | 大騒ぎすることを大山【 | 】と言う。 |
| ⑤ | 人の意見や批評を聞き流して気にとめないことを馬耳【 | 】と言う。 |

問題五 次の作品の作者を後ろの語群から選び、符号で答えよ。

- | | | | | | | | | | |
|---|------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|
| A | 和解 | B | 山月記 | C | 吉里吉里人 | D | 人間失格 | E | 泥の河 |
| | 〔語群〕 | ア | 吉本ばなな | イ | 椎名誠 | ウ | 井上ひさし | エ | 大江健三郎 |
| オ | 太宰治 | カ | 志賀直哉 | キ | 山田詠美 | ク | 中島敦 | ケ | 安部公房 |
| コ | 宮本輝 | サ | 星新一 | シ | 林芙美子 | | | | |

問題六 次は宮本百合子「播州平野」の一部である。読んで、後の問に答えよ。

《こ》までの荒筋 一九四五年八月十五日 敗戦 十月六日には治安維持法が廃止され 政治犯が釈放されることになった。作家・石田ひろ子は旅先の山口県でその「こ」を聞く。夫 石田重吉が政治犯として網走刑務所に収監されていたのである。その重吉が晴れて釈放され帰還するのを迎えるべく、ひろ子は喜びに満ちて東京に戻ろうとするが、台風に見舞われ鉄道も不通になる。しかし、道連れになつた男が明石まで行く荷馬車を確保 ひろ子は、人と荷物でいっぴになつた荷馬車によじのぼり、腰をおろした。

こういう秋の午後、思いもかけない播州平野の国道を、荷馬車に乗ってかたりことりと東へ向かつてドウチュウする。重吉に向かつて進んで行く。ひろ子にはその時代おくれのろささえ快適に感じられた。ひろ子が住みなれている関東平野、東北本線で見なれている那須野あたりの【A】とちがって、播州平野には独特の抑揚があつた。一面耕されている畑土は柔らかく軽そうで、それはエンボウする阪神の山々の峰が高く鋭いのかかわらず、どこか軽々と【B】に聳えている、その風光と調和している。ところどころにキラリとひらめく浅い湖のような水面もある。背広の上衣をぬいで腕にかけ、なれてきたらクチブエをふきながら歩いている。二人とも元気な、齒の美しい若者ドウシである。ちよいちよい冗談を言い合つて笑う。かれらのことばは朝鮮のことばであつた。ひろ子がこの旅の行き来で見かけた朝鮮人たちは、すべて西へ西へ、海峡へ海峡へと動いていた。だが、この若者たちは東へ向かつている。若者たちはうれしいことが行く手に待っているらしく、ほとんどはしゃぐ子犬のようにふざけたり追っかけつこのようなことをしたりして、あいだには歌をうたい、しかし車からは離れずについてくる。【C】に梳かれる秋陽は、播州の山々と畑、小さい町とその樹木を金色にとかし、荷馬車はかたりことりと一筋の国道の上を、目的地に向かつて動いて行く。かた、こと、と鳴る轍の音は不思議に若者たちの陽気さと調和した。そしてひろ子の心に充ち溢れる様々の思いに節を合わせた。この国道をこうして運ばれることは、一生のうちにもう二度とはないことであろう。今過ぎて行く小さな町の生垣。明石の【D】の彼方に赤さびて立っている大工場の【E】。それらをひろ子は消されないカンメイをもつて眺めた。日本じゅうがこうして動きつつある。ひろ子は痛切にそのことを感じるのであつた。

問一 傍線部①③④⑤⑦のカタカナを漢字に改めよ。

問二 次の文は問題文中のどこに入るか。この文の直後にくる文の初めの五字を書き抜くことで示せ。

その荷馬車に荷物だけのせて、自分たちは国道を歩いてくる二人の若者があつた。

問三 空欄【A】～【E】に入るべき言葉を次の中から選び、符号で答えよ。

1 微風 2 原野 3 廃墟 4 夕空 5 松林

問四 傍線部②を具体的に表しているものを三つ挙げよ。

問五 傍線部⑥は、具体的には《どこへ》なのか。問題文中から書き抜け。

問六 この作品で作者が表したいことをまとめて言っている文の、始めと終わりの三字ずつを書き抜け。

問七 問題文の文体の特色を表すものをA群から、そうなた理由をB群から選び、符号で答えよ。

A群 1 躍動 2 豊潤 3 軽快 4 流麗

B群 1 風光への感動 2 弾圧から解放された喜び 3 夫と再会する嬉しさ

4 朝鮮の若者への共感